



組める。そのレベルが高いと思います。海外では、当たり前前のことができない人が結構多いんです。自分主義の多い中で、日本人は会社では重宝がられます。

【市長】では、反対にマイナスになったところはありますか。

【嶋田】全く同じことなんですけど、協調性や真面目さですね。それだけでは面白いアイデアは出てきません。デザインの世界は、人と違うものを出す人が認められるので、上のステージに行けば行くほどつらくなってきます。

【市長】会社の中では、頼りにされるけれども、独り立ちするとになると、独創性が必要になってくるということですね。

【嶋田】そうですね。海外では収入も役職の面でも、レベルアップしていくには、同じ会社では限界があるので、他の会社に移ってステップアップするんです。僕の知る限りイタリヤ人は常に他の会社に履歴書を、それも何千という単位で送っていますね。

40歳過ぎたころにステップアップして、いろんな人たちと付き合い合っただけに世界が広がる。舞鶴出身で世界に出て活躍されている人がいるのは、本当に誇らしいことです。ところで、嶋田さんがデザインする中で、人と違うところ、売りはなんですか。

【嶋田】無理がなくて気持ちのいいということですね。特に居心地を重視します。とにかくそこに居たいと思う空間にしたいと思っています。

【市長】モダンであったり、ゴージャスであったり、素晴らしい空間演出ですね。

【市長】長く日本を離れておられますが、ふるさとには気になりますか。

【嶋田】もちろんです。舞鶴で何か面白いことが出来ないかと思っていて、両親に営業活動してくれって頼んだら、「そんなこ

日本人は給料アップの要求が言えず、働かしてもらえただけでもいいと思ってしまう。それで疲れてしまっただけで日本に帰る人が多い。僕も昔はそうだったので「もっと主張しろ」と若い人たちには言っているんです。日本人は自分をプレゼンテーションするのが下手ですね。

【市長】アメリカでも優秀な医師はどんな条件のいいところに転職します。日本は、辞めると同僚や先輩、部下に申し訳ないと同じ病院に落ち着く人が多いですね。もっと違う場所を力を試したいという人があってもいい。ご両親は最初、今の仕事に就くことを反対されたようですが、もし背中を押されていたとしたら結果は違ったと思いますか？

【嶋田】難しいですね。でも、今自分が子どもを育てている中で思うことは、親の責任として、子どもにたくさん選択肢を与えたいことは必要だと思います。イタリヤでは、親が子どものいい所を見つけてそこを伸ばす。日本は、いまだに平均値を求めるところがあると思います。もちろんそのレベルは高いですけど

と恥ずかしくてできるか！」と一蹴されました(笑)。

【市長】今、舞鶴市では北陸新幹線を京都府北部に誘致する活動をしていて、年内にはルートが決まります。

【嶋田】住みやすくて東京にも近くなる...いいですね。住んでる人も便利になりますね、海外の人が行きやすくなりますね。長く海外に住んでいると、舞鶴のことも客観的に見てしまいます。最近、イタリヤ人でも日本のことをよく知っていて、「東京、京都なんてもう飽きた。もっと面白いところ」って言っていますよ(笑)。

【市長】だから、ジェノバとモナコで「こないだ」とあるよ」と舞鶴をPRしてきました。来年は40回もクルーズ船が舞鶴に寄港することになっています。

【嶋田】クルーズ船は日本とは違いヨーロッパでは気安くないような場所に行けるといイメージがあります。舞鶴湾から日本海を巡る

...いいですね。ちゃった祭りの時に、クルーズ船から花火を見られるのはいい。もっと盛り上げられると思いますね。

【市長】観光はマンネリ化してはいけないと思っています。

何か飛び抜けてというのはあまりないかなあと。

【市長】そうですね。日本人は「あの子みたいなのをしたらダメ」と言いますが、外国では「あの子すこいね」と目立つ子をほめる。

【嶋田】ほめ上手ですね。イタリヤは図工や体育の授業がない。そもそも学校に校庭がないんです。その代わり、学校は日本よりも早く終わって、後は親と子どもが決めたクラブに通わせませす。サッカークラブとか。パカンスは6月の1週目から9月の半ばまで、もちろん学校も休みです。その期間を親の責任でどう過ごさせるか。海外留学させたり、ピアノが好きなら演奏会を聞いて回るツアーに参加させたりします。

人との出会いの大切さ

【市長】一番苦しかった頃はいつでもです。

【嶋田】10代後半の働き始めたころです。78時間寝ずに働いたこともありました。好きなことをしているから続いたんだと思います。誰も褒めてくれないし、親は帰ってこいと言っ。僕は全て自分で判断してきただけですが、もっとやれば楽になれるんじゃないかと、自由に気持ちよく生活するためには、とずっと思っていました。

【市長】ワンランクアップして少し世界が開けたなと思ったのはいつ頃ですか。

【嶋田】最近です。40代になって

からやりたいことができるようになりました。自分のデザインが出世、耳を傾けてくれる人が増えたことです。イタリヤに来て20年になりますが、最近、縁があつて日本の方とお仕事をやる機会ができました。

【市長】まさにこれから、今までのノウハウと人脈で飛躍される時代に入られたんですね。

【嶋田】自分と違うジャンルの人と付き合うことは大切だと思います。

【市長】それがすごく役に立つ。これまで対談した人は、ジャンルは違うけど皆さんそうでした。中学校の頃にはもう目標を決め、若い頃にがむしゃらに頑張つて

嶋田 宣彦

多々見 良三



【嶋田】その通りです。新しいことをしないとダメです。

【市長】子ども達には、「自分の得意とすることを磨け、気付け、目標を持って」と言っているんです。途中で目標は変わってもいいから早くやりたい事を見つけて欲しい。面白い人生を送ってほしいと思います。進学校をいくつも作っているんです。技術の学校もあれば体育の学校もあり、幅広い選択の中で自分にあつたものを見つけられることが大切だと思います。

【嶋田】そうですね。他人と合わせる必要はないと思います。親の役目としては、子どもの選択肢を増やしてあげることが大切です。そして子ども達には、どんな頭

の中の想像をふくらませていってほしいですね。夢があれば、すべきことも分かるし、努力も続けることができます。

【市長】今回の対談は、舞鶴の子ども達に「夢に向かって努力することの大切さ」を伝えられると思います。

今日はありがとうございました。

